

姫路市西延末地内

山崎遺跡・山崎遺跡近接地
確認・試掘調査実績報告書

令和3年度(2021年度)

調査番号：20200616・20210114

名称：山崎遺跡・山崎遺跡近接地

所在地：姫路市西延末地内

調査原因：公園整備

期間：令和3年（2021年）2月4日・6月22日

面積：64㎡（2m×4m×8か所）

調査に至る経緯

姫路市西延末地内において手柄山中央公園整備工事が計画された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である山崎遺跡及びその近接地であることから、工事に先立ち事業地内の埋蔵文化財の有無を確認するために試掘・確認調査を実施した。

調査の方法

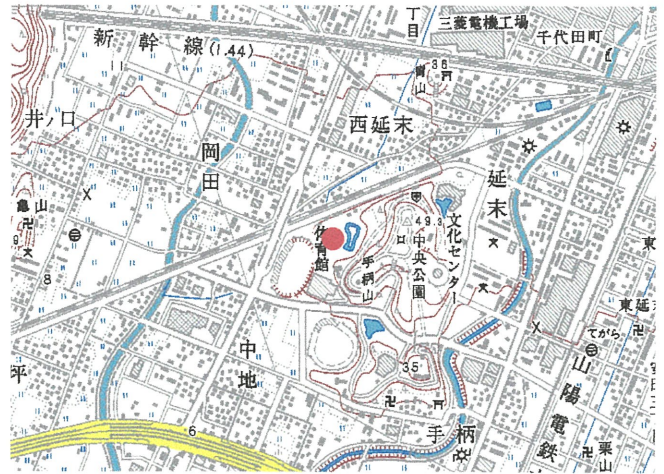
調査は2m×4mの調査区を8か所設定し、実施した。現代の盛土を除去し、下層の状況を確認するまで重機によって掘削した後、調査区壁面、床面等を人力によって精査し、記録のための写真撮影、土層断面実測を行った。

調査の概要

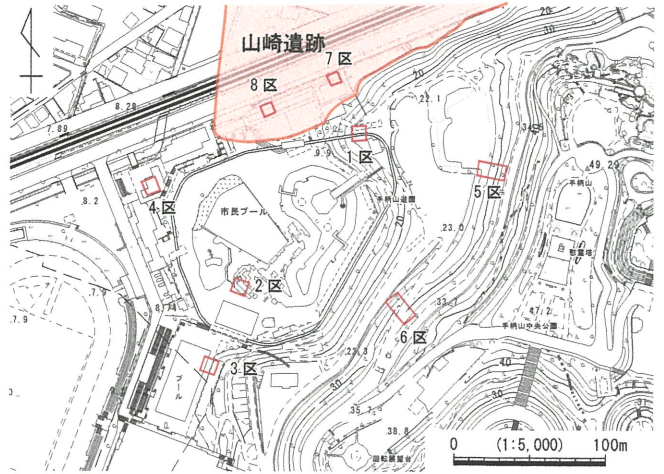
- 1区 現地表面から1.25mまで調査し、掘削底付近で青灰色シルト層を確認した。
- 2区 現地表面から1.58mまで調査し、掘削底付近で青灰色シルト層を確認した。
- 3区 現地表面から1.54mまで調査し、1.1～1.2mの深さで黄橙色を呈する風化岩盤層上面を確認した。
- 4区 現地表面から2.24mまで調査した。現代の盛土が厚さ1.14mであり、その下層では青灰色シルト層を確認した。
- 5区 現地表面から1.5m下まで現代の盛土であった。その下位では、角礫を多く含む明黄褐色粘質土を経て、明黄褐色粘質土（風化岩盤層）・岩盤層に至る。岩盤層は現地表面から2.5m下で確認した。
- 6区 現地表面から1.6～1.8m下まで現代の盛土、旧表土であった。その下で明黄褐色粘質土からなる風化した岩盤層を確認した。同層の上面は地形の傾斜に従い、東から西に向かって大きく下降している。明黄褐色粘質土（風化岩盤層）の厚さは0.75～1.75mで、以下岩盤層に至る。
- 7区 現地表面から1.3m下まで現代の盛土であり、その下位に青灰色シルトが1.0mの厚さで堆積し、さらにその下で基盤層となる灰色砂礫層を確認した。
- 8区 現地表面から1.3m下まで現代の盛土であり、その下位で青灰色シルト層を確認した。

まとめ

今回の調査では、いずれの調査区でも遺構・遺物は確認できなかった。また、5・6区周辺の斜面地を踏査したが、古墳等は発見できなかった。



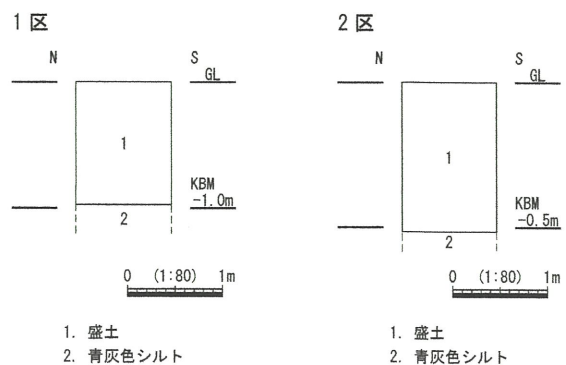
調査位置図



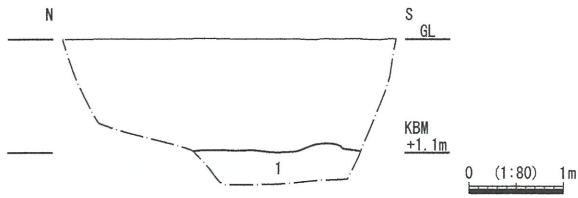
調査位置図



調査地風景（東から）



3 区東壁

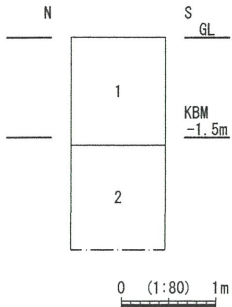


1. 7.5YR8/8 黄橙色粘質土 (風化岩盤)
最上部の一部、節理でもろく割れる



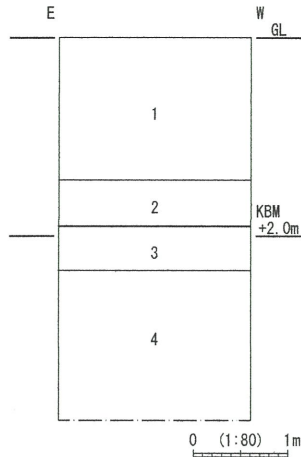
1 区 土層断面 (西から)

4 区



1. 盛土
2. 青灰色シルト

5 区南壁

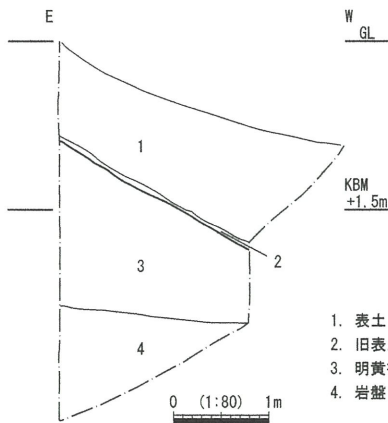


1. 表土・盛土
2. 明黄褐色粘質土 (角礫多い)
3. 明黄褐色粘質土 (風化岩盤)
4. 岩盤



2 区 土層断面 (西から)

6 区南壁

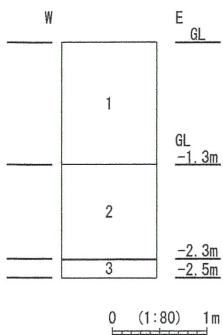


1. 表土・盛土
2. 旧表土
3. 明黄褐色粘質土 (風化岩盤)
4. 岩盤



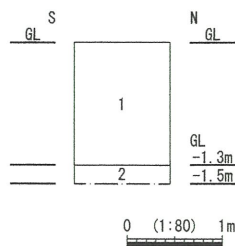
3 区 土層断面 (西から)

7 区



1. 盛土
2. 青灰色シルト
3. 灰色砂礫

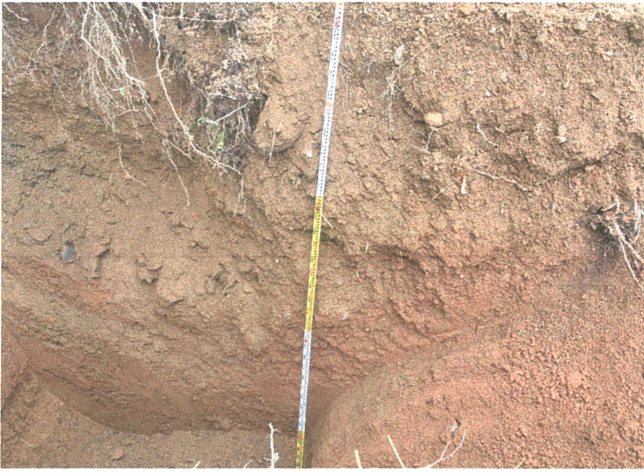
8 区



1. 盛土
2. 青灰色シルト



4 区 土層断面 (西から)



5区 土層断面 (北から)



6区 土層断面 (北から)



7区 土層断面 (南から)



8区 土層断面 (東から)